

付録3 中継網選択

本付録では、“中継網選択”情報要素の処理を規定します。

本手順は未提供です。

1. 中継網選択をサポートしていない場合

中継網選択をサポートしていない網では、“中継網選択”情報要素を受信した時、その情報要素は認識されない非必須情報要素に対する規定（5.8.7.1節）に従って処理されます。

2. 中継網選択をサポートしている場合

中継網選択がサポートされている場合、ユーザは「呼設定」メッセージに選択した中継網を、“中継網選択”情報要素で示します。そして、1つの“中継網選択”情報要素は、1つの網識別を運ぶため使用されます。

ユーザは、1つ以上の中継網を指定可能です。それぞれの網識別情報は、別々の情報要素に入れられます。呼は、「呼設定」メッセージの中にリストされた順に指定された中継網を通してルーチングされます。例えば、ユーザが「呼設定」メッセージ内に2つの“中継網選択”情報要素を網Aと網Bの順で投入した場合、呼は最初、網Aに（直接又は間接的に）ルーチングされ、それから網Bに（直接又は間接的に）ルーチングされて運ばれます。

呼が各選択された網に運ばれた時、対応する“中継網選択”情報要素は、適当な網間信号の処理に従い、呼設定信号から取り除かれることもあります。“中継網選択”情報要素は、目的のユーザには運ばれません。

最大4つの“中継網選択”情報要素を、1つの「呼設定」メッセージに含めることが可能です。

ルートビジーのために、網が呼をルーチングできない場合、網は“理由表示（#34：利用可回線／チャネルなし）”を含んで、5.3節に従って呼の切断復旧を開始します。

指定された中継網を網が認識できない場合、5.3節に従って“理由表示（#2：指定中継網へのルートなし）”情報要素を含むメッセージで呼の切断復旧を開始します。診断情報は、接続できない網を指定する“中継網選択”情報要素の内容をコピーします。

網は、全ての残りの“中継網選択”情報要素を以下のために検証するかもしれません。

- a) ルーチングループを避ける。
- b) 選択された網間の適当な契約関係を確認する。
- c) 国内またはローカルな規則に従っているかを確認する。

中継網選択が、正しいフォーマットではなかったり、基準a)、b)又はc)により適合しなかった場合、網は、5.3節に従って、“理由表示（#91：無効中継網選択）”情報要素を含むメッセージで切断復旧を開始します。ユーザが“中継網選択”情報要素を含めている場合、事前に契約されているデフォルト中継網選択情報は（もしあれば）無視されます。